

今日のトピック

日本株、15年ぶりの20,000円台

ポイント1

世界的金融緩和と企業収益拡大期待が背景

海外投資家の買いが再び増加

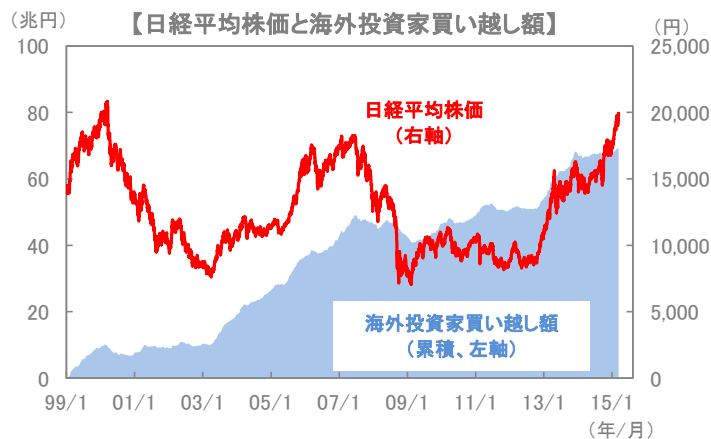
- 日経平均株価は、10日の取引開始後20,006.00円に達し、2000年4月17日以来、約15年ぶりに2万円の台を回復しました。節目となる水準回復で利益確定売りが優勢となり、終値は前日比30.09円安の19,907.63円でした。
- 4月1日に一時、19,000円を下回りましたが、その後、世界的な金融緩和環境や企業収益の拡大期待を背景に上昇傾向を強めています。
- 投資主体別には、足元で再び海外投資家の買いが増加しています。海外投資家は、1月の8,932億円の売り越しから、2月は2,015億円の買い越しに転じ、3月は5,306億円の買い越し、4月1週目は4,454億円の買い越しと、買いを加速させています。

ポイント2

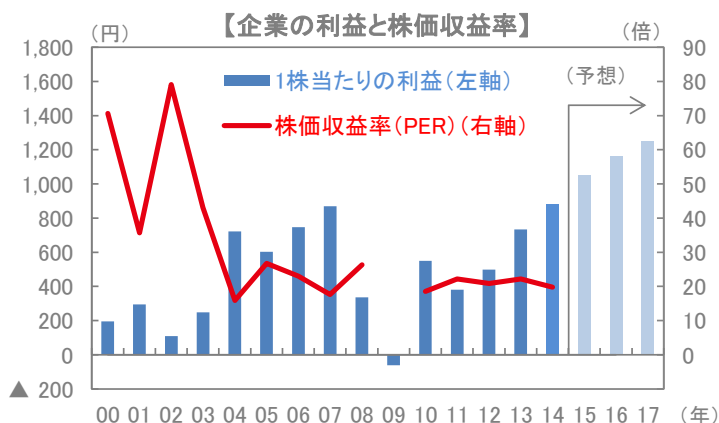
中長期的な収益向上への期待が高まる

2015年は2割増益へ

- 株価上昇の背景には、企業が株主を重視する姿勢を強めていることもあります。自社株買いなどにより資本効率を高める企業や社外取締役を増やす企業などが増え、日本企業の収益が中長期的に向上する期待が高まっています。
- また、2015年の企業収益予想は、約2カ月前の前年比+5%から直近では同+19%に上向いており、過去最高を更新する見込みです。



(注) 日経平均株価は1999年1月29日～2015年4月10日。海外投資家買い越し額は1999年1月29日から2015年4月3日までの週次データの累積値。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット マネジメント作成



(注) データは2000年～2017年。2015年以降はBloomberg L.P.の予想。
2009年の株価収益率は、1株当たり利益がマイナスのため非表示。
1株当たり利益、株価収益率ともに日経平均株価ベース。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット マネジメント作成

今後の展開

企業収益の拡大に沿って株価は底堅い展開へ

- 日経平均株価が1万9,000円台で推移した2000年頃はIT(情報技術)バブルと呼ばれた局面で、株価収益率(PER)は約70倍前後でした。足元では19倍程度と過度な過熱感はないと見られます。
- 今年に入ってからの上げ足が速いこともあり、まずは調整局面も考えられますが、株価は過去最高を更新する企業収益の拡大に沿った展開になることが期待されます。

ここも チェック!

2015年04月09日 家計動向の回復を示した「街角景気」(日本)
2015年04月08日 日銀の政策と市場動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。